

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木(1階 花*花)		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	令和4年1月15日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0191400290-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者様・職員が毎日笑顔で過ごせるよう努めています。 毎日、嚙下・ラジオ体操の実施 他、レクリエーションを行い入居者様と交流を図っています。 入居者様が望む生活に少しでも近づける様、日々の会話の中からヒントを得られるような声掛けに努めています。 入居者様・ご家族様と信頼関係が築ける様、寄り添う支援を心掛け、話しやすい環境作りに努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>函館駅より車で15分程の距離の周囲には戸建て住宅やアパートが並ぶ静かな住宅街に位置し、近くには陸上自衛隊函館駐屯地や小学校、高等学校、専門学校があり、病院、大型スーパー、コンビニエンスストアもある利便性に優れた環境にある。建物は鉄骨造り3階建て、1・2階がグループホーム、3階は建物のオーナー宅になっており、暮らしの様々な場面で協力体制を構築している。当事業所の特筆すべき点は利用者の気持ちに寄り添い、穏やかな生活を支援している点である。理念である「共に学び、共に歩み、日々寄り添う」が全職員にしっかりと浸透し、晩酌をしたい利用者には本人がこだわっている銘柄のビールを用意し、編み物が趣味の利用者とは毛糸の色を決める際に相談に乗って、本人が決定しやすい様に支援したり、毎日浴槽に湯を入れて、いつでも入浴できる様に準備している。また、誕生日などの行事食は日頃から食べたい物、好物を聞き漏らさないように心がけて希望の物を用意するなど、利用者本位の支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に学び・共に歩み・日々寄り添う」を理念に掲げ、職員全員に周知し、日々支援していける様、取り組んでいます。理念はホーム内にも掲示しています。	管理者と全職員で作上げた事業所独自の理念「共に学び、共に歩み、日々寄り添う」を事業所内の目に付きやすい場所に掲示し、会議でも話し合っ具体的ケアにつなげている。今後は地域や利用者の家族とも理念を共有する意向である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、地域交流ができておりません。	感染症対策のため以前のように積極的な交流は出来ないが、雪かきの際に挨拶を交わし、立ち話で情報交換をして今までと変わらない近所付き合いをしている。町内会長や民生委員とも良好な関係が築かれおり、雑巾の寄贈などもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防の為、実施できておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、実施できておりませんが、2か月に1度、運営推進会議で使用する資料を作成し各関係者へ郵送しております。	2か月ごとに「花・花便り(1階)、あおぞら通信(2階)」と一緒に、運営推進会議議事録(行事報告、入居状況、職員状況)や資料を家族と関係者に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、市町村担当者とは連絡を取り、アドバイスを頂く等、良好な関係を築いていけるよう努めています。	事故報告は直接出向いて行っているが、助成金など法的な相談は電話で行い書類は郵送している。ケースワーカーとは電話で状況報告をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人作成の「身体拘束マニュアル」があり、職員全員がいつでも閲覧出来るように事務所に設置しています。また、定期的に勉強会を行う事で正しい知識を身に付けれる様努めています。	3か月ごとに身体拘束防止委員会を開催し、年2回全体研修会を実施して記録を作成し、全職員で共有し運営法人本部にも報告している。廊下には身体拘束禁止11項目と身体拘束排除宣言を掲示して、拘束や抑制のいらぬ介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	3か月に1度 不適切ケア防止委員会、半年に1度不適切ケアに関する研修会を行い理解を深める様に努めています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様がありません。今後の為に、市の制度等をを活用し、順次把握出来る様に努めていきたいと思っておりますが、現状出来ておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容・契約書の説明につきましては、特に時間をかけて行い、ご本人様、ご家族様に納得して頂けるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、確認を行っています。現在苦情等はありませんが、苦情等があった場合は、申し送りや職員会議の中で職員全員が共有出来る様にしたいです。	家族からはケアプラン作成時に意見や要望を聞き、利用者とは日頃から思いに寄り添うことで意向や希望を把握している。薬の管理方法は遮光袋に入れて保管する、下着はTPOに合わせて選ぶなど希望を叶えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の会話の中で気付いた事や思っている事を話し合える環境作りをしています。定期的に個人面談を実施しています。	管理者は年2回の個人面談や日頃から職員とのコミュニケーションを大切に、気持ちに寄り添い些細な思いや提案も気軽に話せる機会を多く設定している。冬期の入浴ケアについて、管理者と全職員で検討し、より温まる方法を見いだしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務態度や努力を評価し、法人での資格取得制度を利用し、スキルアップ出来る様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での内部研修を定期的に行い、また、外部研修があった際は、参加出来る様勤務調整を行っていますが、外部研修への参加はコロナウイルス感染予防の為、参加できていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染の為、同業者と交流する場への参加は出来ていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、情報提供を元に、ご希望や不安なことや思いを聞き取れるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、困っている事などをお聞きし、その場で話せない内容については、後から聞けるような環境を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話をお聞きした上で、必要とされるサービスを判断しています。必要に応じて、他のサービス利用の検討も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に過ごせる時間を少しでも作るように努めています。日常会話も多くすることで信頼関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便りを送らせて頂く事で、簡単ではありますがホームでの様子を伝え、必要に応じて電話連絡し様子を伝えています。また、少しでもホーム内の様子がわかるように行事ごとにブログを更新しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦にて、現在出来ていませんが、お手紙等希望があれば対応しています。	感染症対策のため家族や友人との面会には思うに任せないが、荷物やプレゼントが届いた時はお礼の電話をして馴染みの関係を大切にしている。理・美容は自粛が解除されたタイミングに合わせて行い、日用品などの買い物は職員が代行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、関係が持てるように努めています。必要に応じて職員が間に入る様にしています。食事の席なども配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関わりを持つケースは今までないのですが、必要とされる時には対応したいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、意向の把握に努めることが出来るよう支援しています。確認が困難な方に対しては、表情や発語等を頼りに思いをくみ取れるよう努めています。	利用者の気持ちに寄り添いながら、食べたい物や楽しみ事、思いや希望までを受けとめ、一人ひとりの意向が叶う様に努めている。好物は誕生日の行事食に入れたり、毎夕食に銘柄にこだわったビールで晩酌をすることや編み物や折り紙の楽しみ事が継続できる様に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時、ご家族様からの生活史等の聞き取りをはじめ、記録に残し情報共有しています。また、日々のコミュニケーションの中で、どのような生活をされてきたのか情報を聞き出せるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で情報を共有し、一人ひとりの生活スタイルを把握出来る様努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様からの要望や意見を聞き出せるよう努め、日々の会話や定期的にモニタリング、カンファレンスを開催し、計画作成しています。	居室担当職員のモニタリング情報を基に、カンファレンスで意見を収集し、本人の趣味活動や家族の意向を具体的に取り入れ、実態に合った介護計画を作成して、介護記録と連動させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に入力し、変化が見られた際は申し送りする事で情報共有。介護計画の見直しに活かすよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズに応じてその都度、柔軟な対応が出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防にて、地域資源の協働が図れていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望する医療機関へ受診しています。また、医療機関と連携を結んでおり、月2回医師の往診にて相談、指導、助言を頂いております。必要に応じて受診しています。	本人と家族の希望を優先し、ほぼ全員が協力医をかかりつけ医としている。整形外科などの専門科受診は家族と相談しながら職員が同行している。毎週看護師による健康管理が行われ、また、24時間オンコールで相談や助言を受けられる医療体制を整えている。	

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携先の看護師が毎週月曜日に来訪され、健康相談・報告等行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご家族様へ連絡し、病院へは介護添書を作成し、情報提供しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については、入居の契約の際にお話をしています。また、その時が訪れた際は、再度、ご家族様と話し合い、入居者様にとって最良の方法を考え支援しています。	契約時に本人と家族の意思を尊重し、医師、事業所が話し合い、決定することを旨とした、重度化した場合の対応指針を説明して同意を得ている。本人の状態の変化に応じて医師が説明して再度意思確認をし、チームとして対応している。今までに複数回の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内に、事故発生時、急変時の為のマニュアルを掲示しております。また、定期的に緊急時の対応について勉強会を行う事で、知識を身に付けれる様に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害訓練を年2回実施していますが、コロナウイルス感染予防にて、避難訓練は外部の立会いなく自主訓練となっています。	感染症対策のため災害を想定した自主避難訓練を2回実施している。更に災害時対応の勉強会も実施している。カセットコンロや食料備蓄も3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉使いに注意し、プライバシーを損ねないように努めています。	呼び名は苗字に「さん」付けにしているが、本人や家族が希望する心地よい呼び方にしている。居室は防炎加工を施した暖簾を利用して直接室内が見えない様に工夫し、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の意思で物事を決定できるよう、声掛けや見守りを行っています。ご自分で決定が困難な方には、希望を聞き出せる様な質問をし、表情等を読み取る様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、その人らしく過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、爪切りやうぶ毛剃り、常に洋服の乱れ等がないか確認しています。理美容は、コロナウイルス感染予防により、不定期ですが実施しています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の味見をして頂いたり、食後の食器洗い・お米とぎ等、声掛けにて手伝って頂いております。	献立は運営法人本部で作成しているが、誕生会や行事には日頃から利用者の食べたい物や好きな物を聞き希望を取り入れ、事業所独自のこだわったメニューにして、食事が楽しくなる様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録を行い、職員全員が把握出来る様にしています。食事・水分摂取量が少ない時は嗜好品を提供したり、水分に関してはこまめに摂取して頂く様にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っています。その際、口腔内の状態を確認するようにしています。介助の必要な方は、口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレにて排泄が出来る様に定期的に誘導しています。状況に応じて、2名介助にて行う事もあります。	座位が保てる利用者はトイレでの排泄を大切に考えており、排泄パターンを把握したり、仕草で判断してトイレ誘導をしている。夜は睡眠を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の際に、排便の有無の確認を行っています。また、便秘気味の方には主治医の指示に従って、下剤服用や乳製品を摂って頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回のペースで入浴出来る様にしています。一人ひとりに合わせ支援を行っています。	毎日浴槽に湯を入れて、利用者の希望にいつでも対応出来る様に準備している。本人の意向を大切に、冬期は湯船にゆっくり浸かり、しっかり温まれる様に支援している。入浴後はスポーツドリンクや昆布茶で水分補給している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った生活リズムで休息や睡眠をして頂く様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や目的、副作用等把握するように努めています。服薬の際は職員2名にて確認し服用。配薬表に記入する事で各自責任感を持つようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事や誕生日会を行い入居者様の意見や好みを取り入れ、目先の変わった物を提供しています。また、毎日レクリエーションを行い、楽しく過ごせる時間を作っています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防にて、外出支援は出来ていません。	感染症対策のため外出は自粛しているが、貼り絵を製作したり利用者が読み手となって「かるた」をし、黒ひげゲームなどを利用して、室内での楽しみ事を見いだしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて立替購入しております。入居料請求時に一緒に頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、職員が付き添い、掛けて頂いております。手紙を読むのが困難な方には、代読を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で使用するトイレや浴室にはわかりやすく表示をしています。各居室に表札つけています。リビングや玄関、食堂には、季節に合わせて飾り付けを行っています。温度や湿度管理に注意し、乾燥時期には加湿器使用や居室に濡れタオルを干す等、快適に過ごせる様に努めています。	居間兼食堂にはクローゼットが付いた4畳半ほどの小上がりがあり、大きな窓からは程よく陽が入り、温度や湿度も利用者に合わせて適切に管理されている。玄関や居間兼食堂にお雛様や和風の小物を飾って生活感や季節感を醸し出し、利用者はお気に入り場所です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が自由に過ごせる環境作りに努め、思い思いの時間を過ごせる様努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂く様、入居前の面談で伝え持ち来んで頂く様にしています。また、入居者様・ご家族様の希望を取り入れたレイアウトにしています。	在宅時から使い慣れた家具や思い出の品を持ち込み、家族と職員が相談して安全に配慮した配置にし、個性的でゆったりと寛げる自分の部屋を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	必要箇所に手すりを設置しています。また、障害になるような物は置かない様にし、安心、安全に生活を送れるよう努めています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木(2階 あおぞら)		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	令和4年1月15日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=0191400290-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者様・職員が毎日笑顔で過ごせるよう努めています。 毎日、嚙下・ラジオ体操の実施 他、レクリエーションを行い入居者様と交流を図っています。 入居者様が望む生活に少しでも近づける様、日々の会話の中からヒントを得られるような声掛けに努めています。 入居者様・ご家族様と信頼関係が築ける様、寄り添う支援を心掛け、話しやすい環境作りに努めています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に学び・共に歩み・日々寄り添う」を理念に掲げ、職員全員に周知し、日々支援していける様、取り組んでいます。理念はホーム内にも掲示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、地域交流ができておりません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防の為、実施できておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、実施できておりませんが、2か月に1度、運営推進会議で使用する資料を作成し各関係者へ郵送しております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、市町村担当者と連絡を取り、アドバイスを頂く等、良好な関係を築いていけるよう努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人作成の「身体拘束マニュアル」があり、職員全員がいつでも閲覧出来るように事務所に設置しています。また、定期的に勉強会を行う事で正しい知識を身に付けれる様努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度 不適切ケア防止委員会、半年に1度 不適切ケアに関する研修会を行い理解を深める様に努めています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様が1名おります。今後の為に、市の制度等を活用し、順次把握出来る様に努めていきたいと思っておりますが、現状出来ておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容・契約書の説明につきましては、特に時間をかけて行い、ご本人様、ご家族様に納得して頂けるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、確認を行っています。現在苦情等はありませんが、苦情等があった場合は、申し送りや職員会議の中で職員全員が共有出来る様にしたいです。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の会話の中で気付いた事や思っている事を話し合える環境作りをしています。定期的に個人面談を実施しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務態度や努力を評価し、法人での資格取得制度を利用し、スキルアップ出来る様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での内部研修を定期的に行い、また、外部研修があった際は、参加出来る様勤務調整を行っていますが、外部研修への参加はコロナウイルス感染予防の為、参加できていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染の為、同業者と交流する場への参加は出来ていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、情報提供を元に、ご希望や不安なことや思いを聞き取れるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、困っている事などをお聞きし、その場で話せない内容については、後から聞けるような環境を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話をお聞きした上で、必要とされるサービスを判断しています。必要に応じて、他のサービス利用の検討も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に過ごせる時間を少しでも作るように努めています。日常会話も多くすることで信頼関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便りを送らせて頂く事で、簡単ではありますがホームでの様子を伝え、必要に応じて電話連絡し様子を伝えています。また、少しでもホーム内の様子がわかるように行事ごとにブログを更新しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦にて、現在出来ていませんが、お手紙等希望があれば対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、関係が持てるように努めています。必要に応じて職員が間に入る様にしています。食事の席なども配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関わりを持つケースは今までないのですが、必要とされる時には対応したいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、意向の把握に努めることが出来るよう支援しています。確認が困難な方に対しては、表情や発語等を頼りに思いをくみ取れるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時、ご家族様からの生活史等の聞き取りをはじめ、記録に残し情報共有しています。また、日々のコミュニケーションの中で、どのような生活がされてきたのか情報を聞き出せるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で情報を共有し、一人ひとりの生活スタイルを把握出来る様努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様からの要望や意見を聞き出せるよう努め、日々の会話や定期的にモニタリング、カンファレンスを開催し、計画作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に入力し、変化が見られた際は申し送りする事で情報共有。介護計画の見直しに活かすよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズに応じてその都度、柔軟な対応が出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防にて、地域資源の協働が図れていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望する医療機関へ受診しています。また、医療機関と連携を結んでおり、月2回医師の往診にて相談、指導、助言を頂いております。必要に応じて受診しています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携先の看護師が毎週月曜日に来訪され、健康相談・報告等行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご家族様へ連絡し、病院へは介護添書を作成し、情報提供しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については、入居の契約の際にお話をしています。また、その時が訪れた際は、再度、ご家族様と話し合い、入居者様にとって最良の方法を考え支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内に、事故発生時、急変時の為のマニュアルを掲示しております。また、定期的に緊急時の対応について勉強会を行う事で、知識を身に付けれる様に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害訓練を年2回実施していますが、コロナウイルス感染予防にて、避難訓練は外部の立会いなく自主訓練となっています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉使いに注意し、プライバシーを損ねないように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の意思で物事を決定できるよう、声掛けや見守りを行っています。ご自分で決定が困難な方には、希望を聞き出せる様な質問をし、表情等を読み取る様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その人らしく過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、爪切りやうぶ毛剃り、常に洋服の乱れ等がないか確認しています。理美容は、コロナウイルス感染予防により、不定期ですが実施しています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器洗い・お米とぎ等、テーブル拭きなど声掛けにて手伝って頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録を行い、職員全員が把握出来る様にしています。食事・水分摂取量が少ない時は嗜好品を提供したり、水分に関してはこまめに摂取して頂く様にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っています。その際、口腔内の状態を確認するようにしています。介助の必要な方は、口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレにて排泄が出来る様に定期的に誘導しています。状況に応じて、2名介助にて行う事もあります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の際に、排便の有無の確認を行っています。また、便秘気味の方には主治医の指示に従って、下剤服用や乳製品を摂って頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回のペースで入浴出来る様にしています。一人ひとりに合わせ支援を行っています。状況により職員2名介助で行うこともあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った生活リズムで休息や睡眠をして頂く様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や目的、副作用等把握するように努めています。服薬の際は職員2名にて確認し服用。配薬表に記入する事で各自責任感を持つようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事や誕生日会を行い入居者様の意見や好みを取り入れ、目先の変わった物を提供しています。また、毎日レクリエーションを行い、楽しく過ごせる時間を作っています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防にて、外出支援は出来ていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて立替購入しております。入居料請求時に一緒に頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、職員が付き添い、掛けて頂いております。手紙を読むのが困難な方には、代読を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で使用するトイレや浴室にはわかりやすく表示をしています。各居室に表札つけています。リビングや玄関、食堂には、季節に合わせ飾り付けを行っています。温度や湿度管理に注意し、乾燥時期には加湿器使用や居室に濡れタオルを干す等、快適に過ごせる様に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が自由に過ごせる環境作りに努め、思い思いの時間を過ごせる様努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂く様、入居前の面談で伝え持ち来んで頂く様にしています。また、入居者様・ご家族様の希望を取り入れたレイアウトにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	必要箇所に手すりを設置しています。また、障害になるような物は置かない様にし、安心、安全に生活を送れるよう努めています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームはこだて乃木

作成日：令和 4年 3月 22日

市町村受理日：令和 4年 3月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		次のステップに向けて期待したい内容は特にありませんでしたが、運営推進会議書面開催時についてのアドバイスを頂きましたので、実践したいと思います。	地域の方やご家族様と共に理念を共有したり、職員がどのような研修や勉強をしているのかをお知らせする。	運営推進会議の書面に当ホームの理念や職員研修状況も掲載する。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。